

十五 海の開拓者フェニキヤ人

開拓者といふ者の運命……水平線の威嚇……初めて水平線外に乗出したフェニキヤの航海者……チルとシドン……歐洲の未開民族とフェニキヤ人……岩を繞らした交易場……殖民地の起源……物慾的なフェニキヤ人の末路。

凡そ新天地開拓を吾が使命と感じて未知の國、未知の海原に最初の一步を踏み入れる輩は、己が好奇の心を固く信じて怯むなき勇氣を持つ大膽不屈の士であらねばならぬ。

最初の斯かる開拓者、それは恐らく高い山の麓に暮らしてゐた者に違ひない。その他の相次いで現れた無数の開拓者も恐らくさうした場所に住んでゐたものであらう。彼等は、朝夕に見上げた山をたゞ獨り後に残して、未知の望みの地へと立ち去る時、如何に深い満足を感じたことであらう。

開拓者は山麓の吾が生活に不満を感じる。彼れは不幸に思ふ。この山の吾が眼界を遮ぎり

かくす彼方には如何なる秘密が横はつてゐるのか、彼れは先づそれが知り度い。山の彼方にかくされてゐるのは他の山か、それとも緑滴るばかりの沃野であらうか？ それとも此の山の向ふ側は、海原の暗い波から遽かにそゞり立つ幾千丈の懸崖にでもなつてゐるのか？ 或ひは涯知れぬ沙漠を眼下に見下してゐる山なのであらうか？ あゝ、知り度い、此の峯の彼方の秘密！

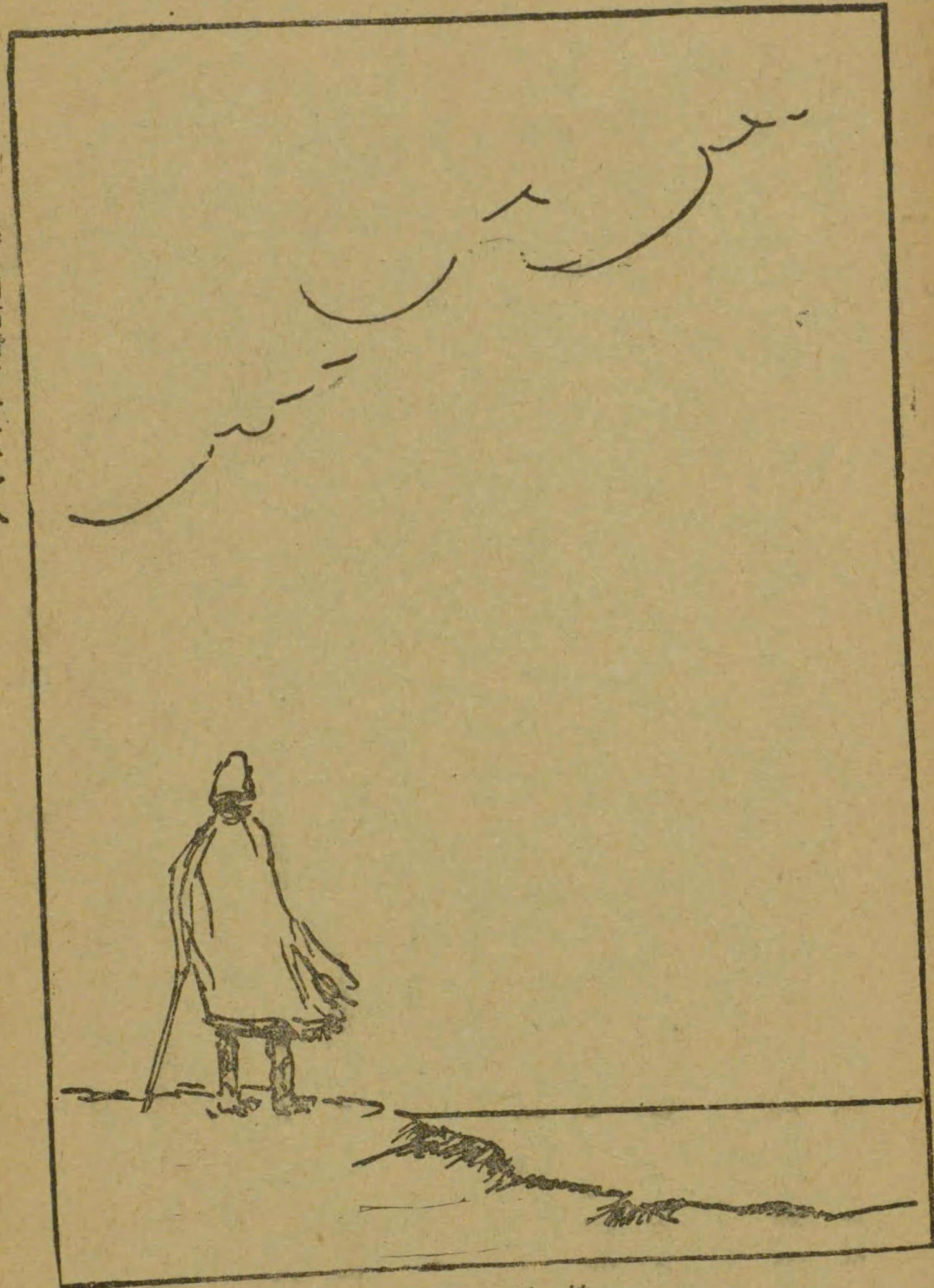
勇心勃々として止み難い眞の開拓者は、良く晴れた日に、吾が家族や住み良い家を後にして探検に出かける。恐らく彼れは又戻つて来るだらう。そして、そんな事には無頓着な身内の者達に自分の冒険を話して聞かせることであらう。併し彼れは落ちて来る岩石や或ひは危険極まる吹雪などに突然殺されて了ふこともあるであらう。さうなれば再び彼れの姿は待ち焦がれてゐる家族の前に現れることはない。「可哀さうに自業自得だわな、全く、何だつて又自家を飛び出したりしたものぢやらう？ 俺達の様に斯うして自家に引つ込んで居れば何の事は無かつたんぢやになア？」氣の好い眞面目な近所隣りの連中は、そんな風に言つて、彼れの企てが無謀だつたかのやうに嘆く。「危いこつちや。誰も止めるこつちや、あんな事！」

人類の足蹟

併し世界は斯かる人々を要求する。勇氣ある開拓者、冒險好きな探險者を要求する。長年の間にさうした人々が冒險のために命を落し、他の人々が彼等の様々な探險や發見から生れた有利な結果を刈り穫つた後に、ふさはしい頌徳文を刻まれた銅像などを建てられたりする。それが彼等開拓者の運命である。

知れざる祕密をその背後にかくしてゐる高い山などに比べ更にも増して怖しく見えるのは、廣野の涯を限る地平線、漂渺模糊たる大海原の涯、水天彷彿たる際の水平線である。それは正しく世界その物の涯であるかと思はれる。凡てが暗い絶望であり死である所、かの水天一に會する所を乗り越えて行く人々の上にも、さはれ、天は深き恵みを垂れ給ふのである。

人類はその最初の不恰好な小舟を造つてから後、世紀から世紀に亘る何萬年の間、海原遠く漕ぎ出ることなく、たゞ住み慣れた海邊の心地良い景色の内のみ留まつてゐたのである。底知れぬ海、涯知れぬ海原、海神の荒れ狂ふ世界、それは長い間人類に取つて寄り着くことの出来ぬ恐怖の世界であつた。



遠き水平線

人類の足蹟

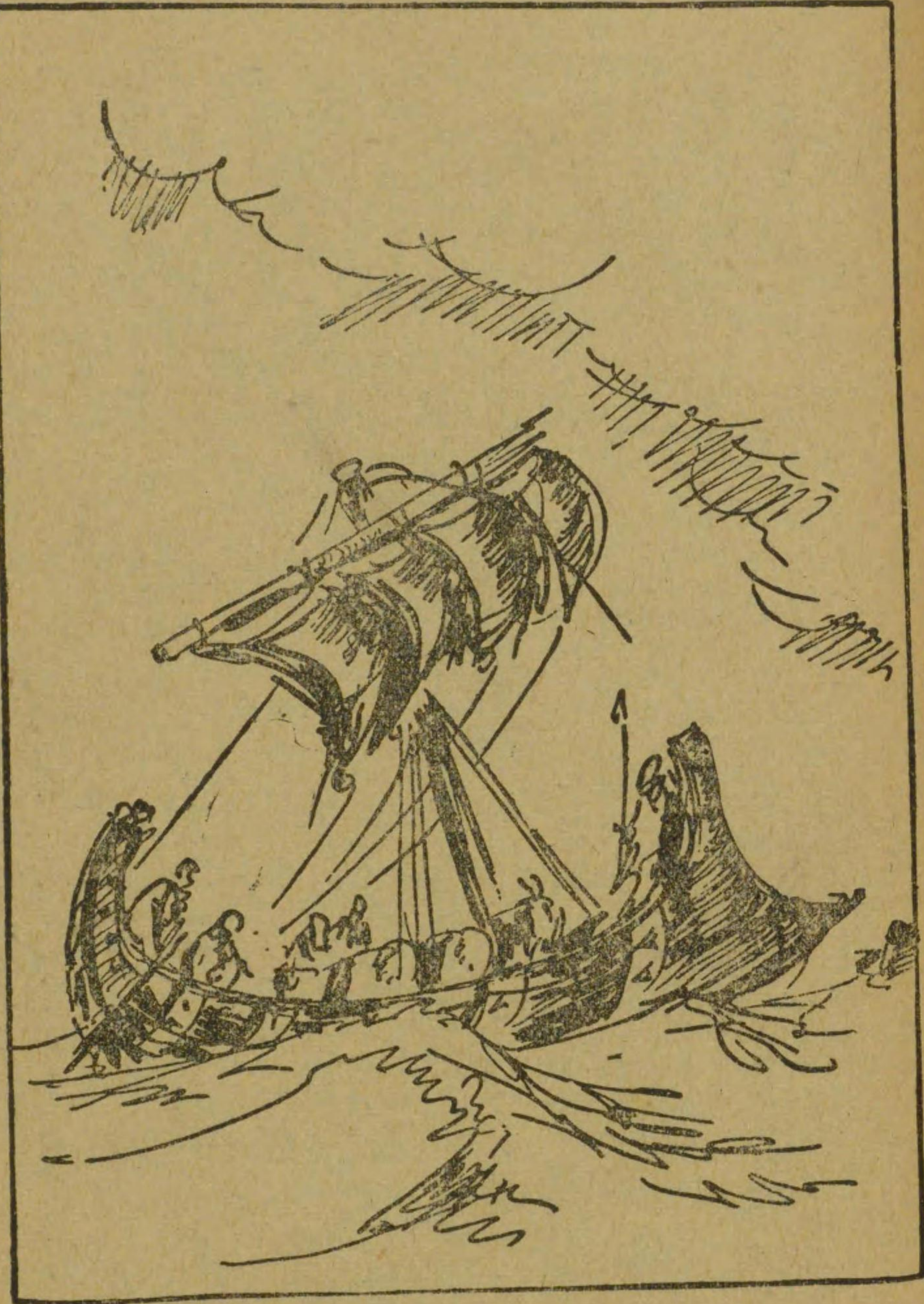
そこへ、斯かる恐怖を知らぬフェニキア人が現れて来た。彼等は陸地の見えぬ彼方まで乗り出した。斯くて氣味の悪い海洋は忽然として通商交易の平和なる大道と變じ、水平線の危険極まる威嚇も單なる作り話となつた。

是等フェニキアの航海者達はセミ族であつた。その祖先は、バビロニヤ人、ユダヤ人その他の民族と共に、アラビヤの沙漠地方に住んでゐた。併しユダヤ人がパレスチナの地に占據した時には、フェニキア人の町々は既に多くの世紀を経てゐた。

彼等の通商貿易の中心地は二つあつた。

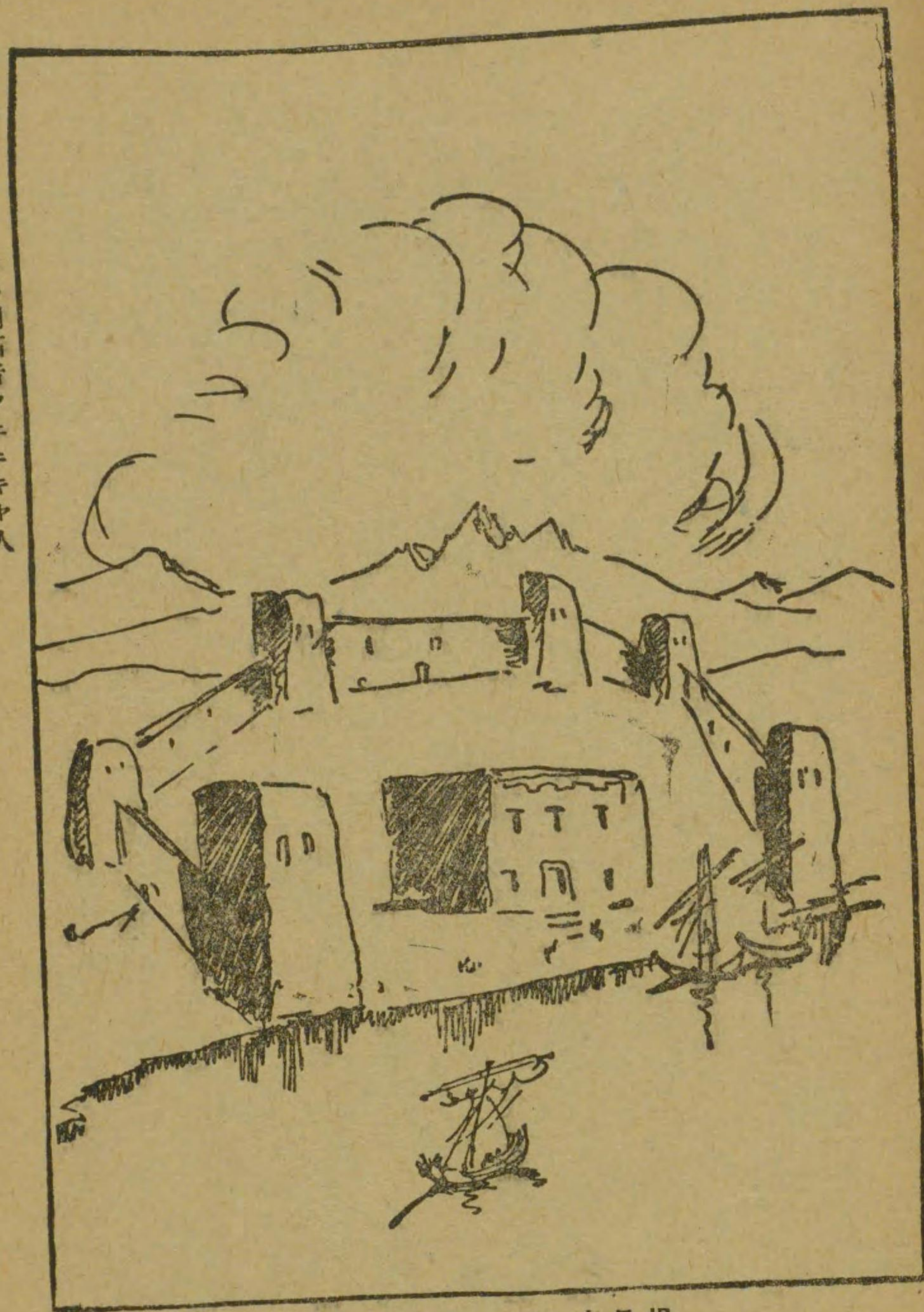
一つはチルと呼ばれ他はシドンと言つた。この二つの港町は高い絶壁の上に築かれてゐた。如何なる敵もこの二つの町を略取することは出来なかつたと傳へられてゐた。彼等の船はこゝを根據として遠く廣く帆走り廻つて地中海の産物を集めた。其等は多くメソポタミヤの住民の手に渡された。

最初この船乗り連中は、フランス、スペインの海岸を訪れ、其の邊の住民と物々交換をなして穀類や金屬を積み込むと、急いでフェニキアの岸へ戻つて来るだけであつた。後にはスベ



フェニキヤ人

海の開拓者フェニキヤ人



フェニキヤ人の交易場

海の開拓者フェニキヤ人

人類の足蹟

イン、イタリー、ギリシャの諸海岸、有用な錫の発見された遠いシ、リー島の海岸などに、
 砦を築いて交易場とした。これが植民地の起源となつたのである。

ヨーロッパの未開な野蠻人には、斯うした砦を繞らした交易場が美しい夢のやうに思はれた。彼等は交易場の主人達に願つて、砦の城壁の近くへ住んだり、港へ帆掛け船が入つて來る時の驚くべき光景を眺めたりすることを許された。欲しくて堪らない様様な美事な交易品を山と積んで、未知の東の國から遠い水平線を乗り越えて來た船、澤山の帆を翼のやうに張りひろげた船が、さうした交易場の港へ入つて來る時、彼等は港のそばへ駆け集つて驚くべき光景に眺め入るのであつた。段々と彼等蕃人は今迄の小屋を打ち棄て、フェニキヤ人の城砦の周りに木小屋を建てるやうになつて來た。斯様にして諸所の交易場は其の近隣一帯の全住民のために大切な市場となつて來た。今迄はフェニキヤの航海者達だけの駐屯地だつた交易場も廣く開放されて一般住民の市場となつたのである。

今日、フランスのマルセーユやスペインのカーデイスの如きは大都市でもあり、大海港でもあつて、何れも其の起源を往古のフェニキヤ人の交易場に發してゐる事を誇りとしてゐる

が、是等の大海港の古への母であつたチルヤシドンの港町は二千年以上の昔に滅亡して忘れ果てられ、フェニキア人は如何にと言へば只の一人も生き残つてゐないのである。

これは哀れな運命であるが、考へて見れば斯かる彼等の運命も亦當然であつたと言はねばならぬ節が充分にある。——記せよ、人々！

フェニキア人は大なる努力なしに富裕になることが出来たが、其の富を賢明に有用に使用すべき道を辨へてゐなかつた。彼等は書物や學問といふ事にはほとんど意を用ひなかつた。金、金、たゞ金の事ばかりに氣を奪られてゐたのである。

彼等は到る所で奴隸の賣買を行つた。彼等は異國の移民を自分等のために無理矢理に苦役に従はせた。彼等は機會ある毎にその隣人を欺いて恥としなかつた。斯様にして彼等は自ら招いて、地中海の沿岸各地の住民凡てから甚しく嫌はれるやうになつて了つた。

彼等は勇敢で根氣強い航海者であつたに相違ないが、詐欺的な狡猾極まる取引に依つて直ちに得られる如き目前の利益を退け遠大なる將來の發展を所期する誠實な取引に眞面目に就かねばならぬ場合に、彼等は何時腰抜けであつた。恥知らずだつた。

大海原に大船を操ることの出来る航海者としては世界に於て彼等より他に無かつた間は、他の凡ての國々の者は悉く彼等の援助を必要とせざるを得なかつた。併し他の國々の住民も舵取りの仕方を覚え一組の帆を自由に操る道を感じて來るや直ちに狡いフェニキア商人等は相手にされなくなつて了つた。

その時以來、チルとシドンはアジアの商業世界に於ける古い立場を失つたのである。彼等は藝術にも科學にも意を向けなかつた。無論獎勵するどころでは無かつた。七つの海を踏破する道も、自分等の向ふ見ずな冒険を變じて將來有利なるべき投資とする道も心得てはゐた。けれども、物的財産のみを基礎としたゞけでは國家を安固に建設することは到底出来ぬ相談である。

フェニキアの地は魂なき帳場として終始したのである。

フェニキアは滅亡した。彼等は一杯に詰め込まれた錢箱を市民の最高の誇りとして有り難がつてゐたからである。

十六、アジアから生れた歐洲語

音聲と文字……近代歐洲のアルファベット……フェニキヤ人の文字の發達せる理由……
ギリシヤ人のフェニキヤ文字改良……アジア太古民族の記録法の共通點……母音再現
の缺如……ギリシヤ人と母音再現法の發明……ギリシヤ文字の傳播。

エジプト人が小さな繪文字を使つて彼等の言葉を保存した事は既に前にお話した通りである。メソポタミヤの人民が家の内外で事務を處理する時手近な方法として用ひた楔形文字のことも前に述べた。

然らば現今歐米人の用ひてゐるアルファベットは何うか？ 吾々の誕生證明の時から埋葬屆書の最後の一語に至る迄、日常生活に如何なる時でも必ず隨いて廻る是等の緻密な小文字は一體何處から來たのであらう？ 是等の文字は昔のエジプト語か、バビロニヤ語か、アラム語か、それとも全然違つた物であらうか？ 次ぎに述べる通りそれは是等凡ての古語と皆幾

分かづ、關係があるのである。

吾々の近代のアルファベットは、吾々の談話を再現させる目的に極めて完全な道具であると
は言へない。何時かは天才が現れて、吾々の發聲する音の各々に其れ自體の小さな形を與へる
やうな新しい記録法を發明する時があるだらう。併し多くの缺點があるにしても吾々の近代
のアルファベットの各々の文字は、其等の極く正確精密な從兄弟いとことも言ふべき數字——ヨロー
ッパへアルファベットが初めて流れ込んでから殆ど十世紀の後に遠いインドの國からヨーロッパ
へさ迷ひ込んで來た所の數字——と同じ様に極く精確に且つ充分に各々その毎日の務めを果
してゐることは事實である。けれども是等の文字の最初の歴史は深い祕密の奥に潜んでゐて
分らない。これが祕密を霧散せしめ凡てを明瞭に解決するには長年の苦心を要するであら
う。

吾々のアルファベットは或る天才に依つて突然發明されたものでは無い。——少くともこれ
だけの事は吾々にも知れてゐる。それは、昔のもつと複雑な組織を持つた數種のアルファベッ
トから、數百年の間に段々と進化し發展して來たものである。

アジアから生れた歐洲語

國際的な通信交通の手段として、西部アジアの一帶に擴がつた、あの智的なアラム商人等の言葉に就いては前の章に述べた。フェニキア人の言葉は彼等の隣國人の間に大して流行しなかつた。この言葉は如何なる種類のものであつたか、極く少數の言葉の他吾々には知れておない。併し其の記録法は廣大な地中海の隈々まで傳へられ、フェニキアの殖民地は其れなく皆この記録法を更に廣く流行傳播させるための中心地となつたのである。

フェニキヤ人などよりも優秀な他の國々が依然として古の不器用な亂雑な書き方を墨守してゐた間に、フェニキヤ人が——藝術にも科學にも少しも意を用ひなかつた彼のフェニキヤ人等が、何故に斯かる緻密な簡便な記録法などを思ひ附いたものであらう？

フェニキヤ人は、先づ第一に、實際的な事務家だつた。彼等は風景を賞讃するために海外へ旅行したのではなかつた。彼等は危険極まる航海をしてヨーロッパの遠い地方や、更に遠いアフリカの諸所までも行つたが、それは要するにたゞ富を探すためであつた。チルヤシドンでは誠に「時は金」であつた。象形文字やスメリア文字で商用文を書くことは、忙しい商人や書記などに取つて有用な時間を浪費することが多かつた。その時彼等は何を考へたであらう？

吾々の近代的實業社會で、手紙や文書を読み聞かせて普通の文字で書き取らせる舊式な方法は何事にも急速を要する近代的生活に取つて餘りに緩慢過ぎるといふ事に、皆の意見が一致した時、或る器用な男が點と線とを簡単に組み合はせて、恰度獵犬が兎を追ひかけるやうに談話の後について迅速に記録し得る簡単な方法を案出した。吾々は之を速記術と呼んでゐる。これは議會や演說會その他で可なり廣く實際に用ひられてゐる。

フェニキヤの商人等は之と同じ物を工夫したのではなかつた。彼等はエジプトの象形文字から幾字か採り、バビロニヤ人から傳へられた楔形文字の一群を簡略な形に改めたのである。

斯様にして彼等は、手間を省くために昔の記録法の持つてゐた美しい形を犠牲にし、古代世界の數千の繪形えがたを減らし省略して、僅か二十二個の簡単な文字から成るアルファベットを作り出した。彼等は先づ家に於てこれが使用を試みた。そして成功したので海外まで持ち出して使ふやうになつたのである。

エジプト人やバビロニヤ人などの間では、前にも述べたが記録法は極めて重要な、殆ど神聖なる技術と思はれてゐた。その間に於て多くの改造進歩が提案されたが神聖を冒瀆する行為として何時も拒絶された。然るにフェニキヤ人は敬神といふ事などには少しも興味を懐かなかつたから、エジプト人などの失敗した所に成功したのである。彼等は自分等の工夫し出した書體をメソポタミヤやエジプトなどへ導き入れることは出来なかつたが、記録法などといふ事は全然知らなかつた當時の地中海沿岸の住民の間ではフェニキヤ式のアルファベットが非常に流行し始めた。吾々は此の廣大な内海の如何なる隈々でも、フェニキヤ文字の影みつけられてゐる壺や柱やその他當時の様々な遺物を今の世に見ることが出来る。

多島海の多くの島々に移住してゐたインドヨーロッパ種族のギリシヤ人は早速この外國のアルファベットを採用して自分等の言葉を記録するやうになつた。ギリシヤ語音の内にはセミ族のフェニキヤ人の耳に知れてゐないのがあつた。さういふ語音を現した文字は無論フェニキヤのアルファベットの内には無かつたから別に工夫し出さなければならなかつた。其等の文字は新に案出されて他の文字の仲間へ入れられたのである。

併しギリシヤ人はそれだけの事では満足しなかつた。彼等は談話記録法の全體に亘つて改良を施したのである。

抑々、アジアの太古民族の持つてゐた記録法は色々あつたが一つの共通點を持つてゐた。といふのは子音は再現されてゐたけれども母音の方は讀者が推讀しなければならなかつた。併しこれは思つた程困難ではない。

アメリカの新聞雑誌を見ると、廣告文などに母音が省略されてゐるのを屢々見ることがある。新聞雑誌の記者や電信係なども、單語中の無用な母音を省略して必要な子音だけ残して、言はゞ言葉の骨組だけを示すやうな文字を勝手に案出することが良くある。これは自分だけでなくては分らないから、それを他人に見せるために書きなほす時には、子音ばかりの骨組の間へ適宜に母音を挿んで、普通の文字にしなければならぬ。

さういふ不完全な記録法は何うしても一般に流行するやうにはならない。で、秩序整頓といふことに敏感だつたギリシヤ人は、五つの母音を再現するために其れれぐ特別な文字を工夫し出した。これが出来たので彼等は、凡ての事を殆ど凡ての言葉で書き現すことの出来る

アルファベットを持つことになつたわけである。(音の再現とは、口に表現された音を更に形に移して表現すること、譯者註)

紀元前五世紀の頃、是等の改良フェニキア文字がアドリア海を越えてアテンからローマへ流れ込んだ。

ローマの軍隊は其等を西部ヨーロッパの最も遠い隈々までも携へて行つてイギリス、オランダなどの地方に於ける住民に初めて小さなフェニキア文字の使用を教へ込んだ。

それから十二世紀後になつてビザンチウムの布教師達は、此のアルファベットを暗いロシア曠原の陰慘荒涼たる荒地の中までも持つて行つた。

今日世界人類の大半が、その子孫のために自分等の思想や智識を記録して保存する手段として用ひてゐるのは元はアジアから起つた所の此のアルファベットに他ならない。

十七、太古世界の終末

漂浪生活より定着生活へ……人類社會の發達……國家……航海術の發明……天體研

究……道德律の發見……記録法の發明……過去の傳統と太古人類……二本足で歩き初

めた人類……インド、ヨーロッパ人種の出現……アーリアン民族の發達……その新文

明。

太古人類の歴史は驚くべき成就の物語であつた。ナイル河の岸邊に、メソポタミヤの平原に、地中海の沿岸に、人類は偉大なる事業を成就し、賢明な統治者達は偉功を樹てた。人類が、餌食を求めてうろつき廻る獸類で無くなつたのは實に其等の土地に落ち着くやうになつてからである。過去何十萬年の獸類生活から初めて其處で脱したのである。彼れは自ら家を建て部落を造り廣大なる都市を建設した。

彼れは國家といふものを造つた。彼れは、波の上を飛鳥の如く走る舟を建造したり操つた

りする方法を會得した。

彼れは天體を研究した。己れ自らの内に彼れは或る偉大なる道德律を發見した。偉大な道德律が、彼れの崇拜する神々に彼れを近づかしてゐる事を、發見したのである。吾々の更に數歩を進める智識のために、吾々の科學や藝術のために、その他單に餌食と寢所とを搔き捜すだけの境涯以上に人生をして崇嚴ならしめんとする諸々の事業のために、太古人類は斯くして牢固たる基礎を据え附けてくれたのである。

過去人類の偉業の内最も重大なるものは何かと言へば音聲を記録する方法の發明である。この記録法こそは、人類子孫のために祖先の經驗の利益を與へ、人類子孫をして多くの智識を蓄積することを可能ならしめた。その結果、人類子孫は種々の自然力を殆ど意のままに支配し得るやうになつたのである。

併し乍ら斯かる多くの功績と共に、大きな失敗をも過去の人類は持つてゐた。

彼れは餘りに多く傳統の奴隸であつた。彼れは疑問の解決を餘り求めようとはしなかつた。

「私の父は私より前に斯く／＼の事をした。父の前には祖父がさうした。二人ともうまくやり抜けて良い結果を得た。だから自分にもうまく行くに相違ない。この遣り方を變へてはならない。」彼れはさう推理するだけで重要な事に氣が附かなかつた。重要な事とは、斯様に過去の事實を辛棒強く肯定するだけでは吾々人類を獸類の境以上に揚げることは出来ない、といふことである。

數十萬年前の人類は猿猴と同じ様に長い手足や捲くれた長い尻尾などを自由に使つて木から木へ飛び移つたり跳ね廻つたりしてゐた。或る時、最早自分の長い尻尾の助けなど借りて木から木へ飛び廻ることなどは御免蒙つて、二本の足だけで歩き始めた天才があつたに相違ない。

併し太古時代の人類は斯かる原始時代の人類に起つた事實は既に忘れ果てゝゐた。當時の人間は祖先の木造りの鋤をそのまま使用したり、數萬年前に崇拜されたと同じ神々を信仰したりしたゞけで、其れをまた自分の子供に傳へるといふに過ぎなかつた。

彼れは前進しないで其のまま、立つてゐたのである。と、其處へ新な、一層精力の強い人種

が水平線の上に現れて來た。斯くて太古の世界に最後の日が來たのである。

吾々は新民族をインドヨーロッパ人種と呼んでゐる。彼等は白人種で、その用ひた言葉はハンガリア語、フィンランド語、北部スペインのバスク語等を除いて現今の凡ての歐洲語の共同祖先となつたのである。

彼等は最初裏海の沿岸地方に住んでゐた。吾々にはそれ以前のこととは分らないが其處に數千年の間住んでゐた事は事實である。併し或る日のこと、その原因は全然吾々に知れてゐないが、彼等は自分等の訓練した馬の背に色々な所有物をのせ、飼つてゐた牛、犬、羊などの群を集めて、遠い幸福と食とを探しにさ迷ひ出した。彼等の一部は中央アジアの山地に入り長い間イラン高原の峰々の間に住んでゐた。で彼等はイレーニア又はアリアン民族と呼ばれることになつたのである。此の他の連中は沈む太陽の後を徐々に追ひかけて進み終に西部ヨーロッパの茫漠たる大原野を占領した。

彼等は野蕃であつた。恰度この書の最初に現れた有史前の原始人類と同じだつた。併し彼等は困難を物ともせぬ剛健な種族で戦ひも上手で強かつた。従つて彼等は石器時代の住民の

獵場や牧場を難なく占領することが出來た。

彼等は未だ全くの無智蒙昧な野人に過ぎなかつたが併し幸福な運命に感謝した。間もなく彼等は、地中海の商人等が自分達の所へ運んで來た古代世界の智慧を、極めて迅速に吾が物として了つた。

併しエジプト、バビロニヤ、カルデア等の歳古りし學問を如何に彼等が使用したかといふと、單に、より高き、より良き或る物への踏み石として用ひた迄に過ぎなかつた。何故かといふと、斯かる傳統は彼等に取つては何等の意味も持たぬものであつたし、彼等自身としては宇宙は吾等が探検すべき吾等が物、吾等が適當なりと見るまゝに發掘すべき吾等が物であると考へ、凡ゆる經驗を人智の酸性試験に投することこそ吾等が義務であると觀じたからであつた。

そこで間もなく彼等は、太古世界の人類が「踰え得ざる防壁」——一種神秘的な「月世界の靈山」と認めてゐた諸々の境界を踏み踰えた。斯くて彼等は以前自分達の教導者だつた諸民族に對抗し、古いアジア世界の老朽した組織に激刺たる新文明を暫くの内に置き換へて了つ

たのである。

是等のイソドヨーロッパ民族並びに其の種々なる冒險に就いては拙著 *The Story Of Mankind* を讀んで頂き度い。その書物では古代のギリシヤ、ローマその他世界の有ゆる民族に就いて詳しく物語つて置いた。

本文畢

〔附録〕

太古史年表

一、有史前の人類

有史前の人類に就いては精確なる年代を示すことは何人にも出来ないが約二十萬年前迄を原始人類の時代として大なる誤りはない。本書の初めに現れてゐる有史前の原始的なヨーロッパ人は約五萬年前のもの。

二、エジプト民族

ナイル河沿岸の谷間に最初の文明が開けたのはキリストの生誕前四千年頃。左記の年數は皆 B.C. 即ちキリスト生誕前を示す。

三四〇〇——古エジプト帝國の創建。都はメンフィス。

太古史年表

- 二八〇〇——二七〇〇——ピラミッド築造。
- 二〇〇〇——古エジプト帝國の崩壊。ヒクソスと稱するアラビアの牧羊民の侵入のため。
- 一八〇〇——ヒクソス追放されエジプト新帝國建設さる。都はテーベ。
- 一三五〇——ラムシーズ王の東方アジア征服。
- 一三〇〇——ユダヤ人エジプトを去る。
- 一〇〇〇——エジプト衰亡の徴あり。
- 七〇〇——エジプト、アッシリアの一屬州となる。
- 六五〇——エジプト獨立し、ナイル河口のデルタに在るセーイスを都とせる新國建設せらる。外人特にギリシヤ人此の國を支配し始む。
- 五二五——エジプト、ペルシヤの一屬領となる。
- 三〇〇——エジプト獨立王國となる。アレキサンダー大王麾下の一將軍トレミイ其の王たり。
- 三〇——トレミイ王朝の最後の統治者女王クレオパトラ自殺し、エジプト、ローマ帝

國の一部となる。

三、ユダヤ民族

- 二〇〇〇——アブラハム一族と共に東部バビロニヤのウルの地より動き出し、アジアの西部に新住地を探す。
- 一五五〇——ユダヤ人エジプトのゴーシエンの地を占む。
- 一三〇〇——モーゼ、エジプトよりユダヤ人を招び出して神聖なる掟「十誡」^{デカローグ}を與ふ。
- 一二五〇——ユダヤ人ヨルダン河を越えバレスチナに占據。
- 一〇五五——サウル、ユダヤの王たり。
- 一〇二五——ダビデ強力なるユダヤ國の王たり。
- 一〇〇〇——ソロモン、イェルサレムの大寺院建立。
- 九五〇——二王國に分裂しユダヤ王國とイスラエル王國となる。
- 九〇〇——六〇〇——大豫言者の時代。

人類の足蹟

- 七二二——アッシリア人のバレスチナ征服。
五八六——ネブカドネザルのバレスチナ征服。所謂「バビロニアの俘虜」事件。
五三七——ペルシヤ王サイラス、捕虜ユダヤ人を許してバレスチナに歸らしむ。
一六七——一三〇——マッカビー王家の治下に於けるユダヤ獨立國の最後の一期。
六三——ボムペイウス、バレスチナをローマ帝國の一部となす。
四〇——ユダヤのヘロド王。
紀元七〇——タイタス皇帝イェルサレムを破壊す。

四、メツボタミヤ諸民族

- 四〇〇〇——スメリア人、チグリリス、ユーフラテス兩河の間即ちメソボタミヤを占據す。
一二二〇〇——バビロンの王ハムラビー、有名なる法典を制定す。
一九〇〇——アッシリア帝國の創建、都はニネヴェー。
九五〇——六五〇——アッシリア、西部アジアの支配者となる。

- 七〇〇——アッシリア王サルゴン、バレスチナ、エジプト、アラビヤ征服。
六四〇——ミーズ即ちメディア國人、アッシリアに反逆。
六三〇——シ、ア人のアッシリア攻撃。アッシリア王國內到る所革命續發。
六〇八——ニネヴェー破壊さる。アッシリア王國の滅亡。
六〇八——五三八——カルデア人、バビロニア王國を再建。
六〇四——五六一——ネブカドネザル王イェルサレムを破壊しフェニキヤを略取し、バビロンを文明の中心地となす。
五三八——メソボタミヤ、ペルシヤの一屬州となる。
三三〇——アレキザンダー大王のメソボタミヤ征服。

五、フェニキヤ人

- 一五〇〇——一二〇〇——シドン市フェニキア人の通商貿易の中心地たり。
一一〇〇——九五〇——チルス市フェニキアの商業中心地となる。



ペルシヤの神壇

人類の足蹟

- 一〇〇〇——六〇〇——フェニキヤの殖民帝國の發展。
- 八五〇——カルタゴの創建。
- 五八六——五七三——ネブカドネザルのチル包圍。
- 五三八——フェニキヤ、ペルシヤの一屬州となる。
- 六〇——フェニキヤ、ローマ帝國の一部となる。

六、ペルシヤ人

インドヨーロッパ民族が歐洲や印度に進入し始めたのは何時頃か明確ならず。

一〇〇〇——偉大なる道德律を説いたペルシヤの大思想家ツラーストラ（又はゾロアスター）の時代として常に擧げられる年代。有名なるゾロアスター教（拜火教）の始祖は即ち彼れ。

六五〇——インドヨーロッパ種族中のメディア人、バビロニヤの東方國境に沿つて一國を創建す。

人類の足蹟

五五〇——三三〇——ペルシヤ王國の時代。インドヨーロッパ民族とセミ族との葛藤始る。

五二五——ペルシヤ王カムビシーズのエジプト略取。

五二〇——四八五——バビロンを征服しギリシヤを遠征せるペルシヤ王ダリウスの治世。

四八五——四六五——東部歐洲の征服を企てたるも失敗せるペルシヤ王ザークシーズの治世。

三三〇——ギリシヤのアレキサンダー大王西部アジア及びエジプトを悉く征服しペルシヤもギリシヤの一屬州となる。

セミ種族に支配されてゐた太古の世界は殆ど四千年に亘つて存続した。紀元前第四世紀に老衰の結果亡ぶ。

西部アジアとエジプトは、ヨーロッパを占領（その年代不詳）せるインドヨーロッパ民族に取つては先師であつた。

紀元前第四紀、インドヨーロッパ種族といふ弟子は先師たりし諸民族より遙かに進化した。世界征服を開始した。

紀元前三三〇年のアレキサンダー大王の有名な遠征はエジプト、メソポタミヤの文明に終りを告げしめギリシヤ文化（即ち歐洲文化）の優越權を樹立した。（年表終り）

Handwritten notes: I love, mo, I know, I know

原始時代より
太古時代まで

人類の足蹟 畢

人類

太古史年表

昭和十三年六月五日發行
昭和十三年六月一日印刷

著作權所有

原始人類の足蹟奥付

定價金壹圓五拾錢

著者 柳井和助

發行者 東京市下谷區御徒町一ノ二二 中田虎之助

印刷者 東京市淺草區淺草橋二ノ一三 大島豊作

印刷所 東京市淺草區淺草橋二ノ一三 大英社印刷所

發行所 東京市下谷區御徒町一ノ二二 精文堂書店

振替東京五二五〇三番

12

528
134



